

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2019-006
2.研究課題名	前鼻腔性嗅覚と後鼻腔性嗅覚の違いに関する実験心理学的研究
3.研究期間	令和2年1月（倫理委員会承認後）～ 令和2年3月31日
4.研究の概要	<p><b>意義・目的</b>（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。）</p> <p>従来の多くの研究から、鼻先から嗅ぐ匂い（以後前鼻腔性嗅覚という）と口から鼻へ昇る匂い（以後こう鼻腔性嗅覚という）の間には質的な違いがあると示唆されてきた。しかしながら、従来の研究は質的な違いの存在を示唆するのみで、具体的にどのような違いがあるかということについては触れてこなかった。そこで本研究では、20種類の香料を用いてそれらを鼻孔から提示した時の香りの印象と、口腔内に提示した時の香りの印象を比較することから、前鼻腔性嗅覚と後鼻腔性嗅覚の質的な違いを明らかにすることを目的とする。</p> <p><b>方法</b>（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</p> <p>東北大学の大学生・大学院生100名を予定し、口頭および掲示による募集を行う。半数は日本人学生、残り半数は外国人留学生とする。参加者は20種類の香料の香りを前鼻腔的あるいは後鼻腔的に嗅いで、それぞれの香りについて9項目の評定を行う。香りに対する慣れを考慮し、4刺激を1セットとし、セット間には5分の休憩を空ける。また、実験は2日（4セット/日）に渡って実施する。1日の実験には1時間弱を要し、実験参加にあたる謝礼として1日あたり500円の図書カードを渡す。</p> <p><b>問い合わせ・苦情等の窓口</b>（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）</p> <p>文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6103；sed-syom@grp.tohoku.ac.jp）</p>

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）